

## 数を含む慣用句と諺

(日・英比較して)

伊藤 三郎

### Idioms and Proverbs Including Numerals English vs Japanese

Saburo ITO

#### はじめに

ものを数えるという行為は、地球上の生物の中では人間だけが持つ能力である。しかし先史時代に、どのように数え、どのように記録したかは明らかでない。ものの数を数えたり、量をはかったりして、その多少を意識することは人間の本能的行為といってもよいもので、原始的な未開人や幼児も、程度の差こそあれ等しくこれを行っている。

南アメリカの原始人などは3の数まで数え、それ以上は「たくさん」という。しかしこのような傾向は、多くの未開民族についてもいえることである。ニューギニア南端またはアフリカのアッシュマンなどもやはり3以上の数詞を持たないのである。

ほとんどすべての言語には、ものを数える場合に用いる特殊な語として数詞 (Numeral) が存在する。未開人の言語には3までの数詞しかないもの、あるいは1は「小指」、2は「薬指」、3は「中指」、10は「肩」など身体の各部を示す語を流用して、数詞としての別個の語を持たないものもあり、言語によってはその種類・組織に相違はあるが、いずれにしても数詞あるいはそれに代る語は、人間活動の言語表現に欠くことのできない重要なものである。人間の言語として最も基本的な語彙の一部に属するものといえよう。

人間の持つ数的概念は、語彙としての数詞に表われるばかりでなく、文法範疇としての「数」(Number) に現われるが、ここでは前者を取り上げることにする。人類が記録の必要を感じるようになった時、その記録の重要な部分をなすものは数であった。従って数字の起源はきわめて古いのである。

#### 忌数と聖数

洋の東西を問わずいわゆる「縁起」、(そもそもは佛教から来た語) をかつぐということがいろいろな風俗・習慣の中で重んぜられてきた。「数」にあっても例外ではない。数に関しては「聖数」と「忌数」とがある。数に対して神秘的な意味を与え、これによって特定の数を嫌ったり、あるいは吉として尊ぶということは各民族の間に共通して見られる。例えば中国では古代から「奇数」を「陽数」として尊んだのに対して、「偶数」を「陰数」として忌み嫌ってきた。このことは日本にも移入され現在に至っている。例えば「七五三」「三三九度」などである。「七五三」はめでたい奇数からその3つをとったものである。本膳七菜、二の膳五菜、三の膳三菜を供えた。「三三九度」は吉数の三を重ねた数で、出陣・帰陣・祝言などの際の献杯の礼— 3

つの組の杯で三度ずつ三回酒盃を献酬することである。「三三七拍子」などもこの例である。

しかし大陸文化移入以前の日本では偶数が尊ばれた。例えば一般に吉とされる奇数の中でも三など忌数とされることが多かった。現在でもなお3人で写真を撮ると真中のものが死に、三軒長屋の中の家はたたりがあると云われている。また七は吉数として「七福神」「七賢人」などとして尊ばれている。偶数の場合は八がいわゆる「末広がり」として神聖な数として見なされ「八咫鏡」「大八洲」などの用例がある。四は南方諸民族などでは聖数として重要な意味を持っているが、日本では「死」に通ずるとして忌まれ、病院では4号病室は避け、刑務所にも4房室がない。13を忌むことは他の民族においても広くかつ古くから存在する信仰である。ドイツでは13番街がないといわれ、欧米では金曜日の13日が忌まれている。

神聖視される数が「聖数」である。例えば古代イスラエル人は、7を神聖な数とし、12をよい数と考え、6を好ましくない数と見ていた。したがってイスラエルが12の支族にわかれたことは好ましいことであり、「7人の祭司が角のラッパ7本をたずさえて、7日間敵の町の外国を歩き、7日目に7度まわったためにその町の石垣は崩れえて陥落した」という記録に7の数に対するイスラエル人の異常なまでの関心が見られる。3は天の数、4が地の数、その和が7、積が12であるために神聖な数とされているのである。

前述のように、日本では最も忌む4は、アメリカインディアンなどでは、大へん尊ばれている。Sioux族は、力の神は4つの風の中に住み、夜の4つの黒い精がその命令を行うという。Vancouverの呪医の入社式では、「左に4度まわって、足を4度上げて、4歩前に進む」というように4を聖数として動作の仕方をきめている。聖数に従うことにその行動や行事に、特別に神秘的な力を帯びさせる意味も含まれているのである。

### — ONE —

“Begin with NO. 1”で、ものの順序として「1」から始めることにしよう。先づほとんどの辞書に見られる‘one’を用いた idiom を羅列して見よう。

be one too many for～ 「～よりもうわてである」

He is one too many for me. 「彼は私より一枚うわてだ。」即ち「彼は私には手に余る相手だった」ということである。

have one too many 「酒を飲みすぎる」

I had one drink too many last night. 「昨夜一杯だけ飲みすぎた」

one for the road 「(親しい人と別れる時に飲む) 別れの一杯」

“One for the road?” “Thanks” 「お別れに一杯どう?’ 「いいね」

for one 「個人としては」

I, for one, do not believe it. 「私個人としてはそれを信じない」

for one thing 「一つには」

Country life has many advantages. For one thing, the air is fresh and clear. 「田舎の生活は利点が多い。一つには空気が新鮮できれいなことだ。」

in one 「一体となって」、「一つですべてを兼ねて」

She is my mother and my teacher in one. 「彼女は私の母でもあり教師でもあった」

このように one は「1」から「一体になって」「一致した」の意味になる。with one voice 「異口同音に」 All were of one mind. 「みんなの心が一致していた」 one and the same of の表現も出てくる。

one and all 「一人残らず」

They came, one and all, to welcome him home. 「彼らはみんなやって来て彼の帰宅を歓迎した」

one by one 「一人ずつ」、「相ついで」

Such questions cannot be answered neatly and simply one by one. 「そうした問題は一つ一つきちんと簡単に答えることはできない」

ここで日本語に目を転じて見よう。まず数を重ねる idiom からとり上げてみる。

「一喜一憂」 “be now glad, now sad.”

「父の病気は一喜一憂の状態です」 “My father’s condition is now encouraging, now alarming.”

「候補者たちは一喜一憂の有様だ」 “Candidates are agitated, now being optimistic, now pessimistic.”

「一言一句」

「聴衆は一言一句もらさじと聞いた」 “The audience were all ears so as not to miss a single word.”

「一言半句他人にもらすな」 “Don’t breathe a syllable of it to anyone.”

「一利一害」 “advantages and disadvantages” “merits and demerits”

「一利一害は世の常である」 “Every advantage has its accompanying disadvantage.”

「それは一利一害だ」 “It has its advantages and disadvantages.”

「一進一退」 “advance and retreat” “ebb and flow”

「氏の病気は一進一退である」 “Sometimes he gets a little better but then gets worse.”

「戦況は一進一退である」 “The struggle seasawed to and fro.”

「一挙一動」 “every movement of a person”

「氏の一挙一動を世の人は見守っている」

“His movements are being carefully watched by the public.”

「彼は一挙一動いやしくもしない」 “He is prudence itself.”

その他、「一も二もなく賛成する」 “I agree without hesitation (at once).” 「一も二もなく断った」 “I refused (his offer) flatly.” また「一にも二にも A 氏でもちきり」 “It is Mr. A this and Mr. A that.” 「一か八かやってみよう」 “I’ll give it a try, all or nothing.” “Sink or swim, I’ll try.” 「一を聞いて十を知る」 “A word to a wise man is enough.” 「一から十まで」 “everything” で充分。 “He knows everything about baseball” などの用い方でよかろう。また「一二を争う」などは “He is always one of two topboys in class.” 「一六銀行」は “a pawnshop” 一六勝負は “run a risk ; take a chance” など。

### “One……Another……” の諺

1. One beats the bush and another catches the bird. 甲が茂みを打ちあさり、乙が鳥を捕える。(犬骨折って鷹のえじき)
2. One business breeds another. 仕事は仕事を生む。
3. One crow never pulls out another’s eyes. 馬同志は相手の目をえぐり取ることをしない。(血は水よりも濃し)
4. One barber shaves not so close but another finds work. 一人の床屋がつるつるにそっ

- ても、別の床屋が更に手を加えてそる余地はあるものだ。(鬼の目にも見残し)
5. One bit draws down another. 一口はもう一口を招く。(一つよければまた二つ)
  6. One devil is like another. 悪魔は似たりよったり。
  7. One fire drives out another. 火が火を消す。(火を以て火を救う)
  8. One fool praises another. 馬鹿は馬鹿をほめる。
  9. One good friend watches for another. 良友はもう一人の良友を待望する。(似るを友)
  10. One good turn deserves another. 甲の善行は乙の善行に値する。(情は人の為ならず)
  11. One ill word meets another and it were at the Bridge of London. (and = if) そこがロンドンブリッジであるなら意地悪言葉は意地悪言葉に会うものだ。(売り言葉に買い言葉)
  12. One kindness is the price of another 甲の親切は乙の親切を得るための代価である。(参らすれば、賜る.)
  13. One law for the rich, and another for the poor. 金持用の法律と貧乏人用の別の法律。(銭ある者は生き、銭なき者は死す)
  14. One man's meat is another man's poison. 甲の食物は乙の毒
  15. One mouth does nothing without another 口はもう一つの口がなければ何も出来ぬ。
  16. One tale is good until another be told. 甲の話は乙の話が語られない中は立派である。(両方聞いて下知をなせ)
  17. One thief robs another 盗人が盗人から盗む。(鬼の餌食を餓鬼がとる)
  18. One misfortune comes on the neck of another. 不幸は踵を接してやってくる。(弱り目にたたり目)
  19. One nail drives out another. 釘が釘を打ち出す(油を以て油煙をおこす)
  20. One shrewd turn follows another. 意地悪の仕打をすれば意地悪な仕打ちを受ける。(人を呪わば穴二つ)
  21. One slumber invites another. 一度眠るとまた眠くなる。
  22. One sword keeps another in the sheath. 刀は刀を鞘から出さない。
  23. One wolf will not eat another. 狼は共食いはしない。(盗人にも仁義)
  24. One year of joy, another of comfort and all the rest of content. 一年目は歓喜、二年目は安楽、あと死ぬまで満足。

### One と Two 及び Three の諺

One と Two, Three と対照されている諺も多く見られる。更にそれ以上の数、終には many もよく見受けられる。

1. One ass cannot carry two proud men. ロバ一頭は高慢な人間二人は乗れない。
2. One bad general is better than two good ones. 三流の将軍一人の方が一流の将軍二人よりもよい(船頭多くして船山に上る)
3. One bush cannot harbour two robbin redbreasts. 一つの茂みは二羽のコマドリをかくまえない。(連鶏ともに棲にとどまる能わず)
4. One foot is better than two crutches. 二本の松葉杖よりも一本の足(ひとりりをたのむはみずからたのむにしかず)
5. One good forewit is worth two after wits. よい前知恵は後知恵二つに値する。(げすの知恵はあとにつく)

6. One hour today is worth two tomorrow. 今日の一時間は明日の二時間に値する。(明日の百より今日の五十)
7. One journey and two errands. 一回の旅行で二つの用件を片付ける。(一石二鳥)
8. One pair of heels is worth two pairs of hands. 一对の踵は二対の手に値する。(三十六計逃げるにしかず)
9. One volunteer is worth two pressed men. 一人の志願兵は二人の強制徴集兵に匹敵する。
10. One shrew is worth two sheep. ガミガミ女房一人はおとなしい女房二人分に値する。
11. Two is better than one. 二人は一人にまさる。(衆力功あり)
12. Two attorneys can live in a town, when one cannot. 町の弁護士は一人では暮らしが成立たないが二人なら暮してゆける。

次に **three** と関連するもの

1. One hour's sleep before midnight is worth three after. 夜中の12時前の眠り一時間は2時以後の三時間に値する。
2. One is better than three. 一人の人間の方が三人の人間よりすぐれている。
3. One is too few, three too many. 1は少なすぎ3は多過ぎる。(三人寄れば取りつき講) さらに three 以上の数と関連するもの
1. One year's seeding makes seven years weeding. 一年雑草の種が地に落ちるのを許すと七年除草しなければならない。(一年稗をとらないと9年のわずらい)
2. One year a nurse and seven years the worse. 一年間乳母をすると七年間もつと悪い女になる。(一時の懈怠は一生の懈怠)
3. One mend-fault is worth twenty spy-faults. 一つの矯正は二十のあら探しに値する。
4. One reason is as good as fifty. 理由は一つあれば五十あるのと同然
5. One man is worth a hundred and a hundred are not worth two. 一人の人間が百人の人間に値する。そして百人の人間が一人の人間に値しない。
6. One pair of ears draws dry a hundred tongues. 一人の耳は百人の舌をカラカラに干上がらせる。
7. One lie calls for many. 一つの嘘は多くの嘘を必要とする。

以上のように“one”についての idioms 及び proverbs は大変多い，“one”には日本語も英語も「1つ」「同じ」「専ら」「ある(ぼんやり)」など様々な用法があるため枚挙にいとまがない。最後に「一」を含む日本語を英語で表わして見よう。

一足お先に “Excuse me for my leaving ahead of you.” であるがアメリカ人同士は別にことわる必要はない。“Well, I must be running along now.” といって立ち上ればよからう。

一旗あげる “seek one's fortune” 「一旗あげてみるかな」= “I will try my luck in a new enterprise”

一目ぼれ “I love at first sight.” “They fell in love at first sight.”

一部始終 「一部始終聞かせてくれ」= “Tell me the whole story.”

一言居士 “a ready critic” であるが “You have something to say about everything, don't you?” ぐらいでよいと思われる。

一面識もない “I have never met him” “I have no previous acquaintance with him.”  
手紙で「一面識もない者ですが……」は “Although I have not had the pleasure of meeting you, ……” と書けばよい。

- 一目散に逃げる “run for one’s life” “for dear life” とすれば意味が強くなる。  
一日千秋の思い 「あなたのお帰りを一日千秋の思いでお待ちしています」 = “I can hardly wait till I see you”  
一挙兩得 “two birds with one stone.” 「そうすれば一挙兩得だ」 “It will kill two birds with one stone” “I will serve two purposes”  
一本気 one-track-mind “He has a one-track-mind.”  
一矢を報いる 「彼に一矢を報いてやった」 = “I struck back.” “I shot back at him.”  
窮余の一策 “A drowning man will catch at a straw.” の諺を考えると「窮余の一策」は，“straw”に相当する。「仕様がな。窮余の一策だ。それをやってみよう」は“Well, there’s nothing else to do. Let’s try it. They say, ‘A drowning man will catch at a straw.’”  
といえは意味ははっきりする。  
真一文字に as the crow flies, make a beeline.

— TWO —

「一」を用いた表現は、ずばぬけて多いが「二」についても負けず劣らず多く見られる。  
put two and two together 「あれこれ考え合わせる、総合して正しく判断する」

It didn’t require a great mind to put two and two together 「正しい結論を出すのに偉大な頭脳なんて必要がなかった」

by (in) twos and threes 「三々五々、ちらほらと」

They are walking in twos and threes through the garden  
in two 「真二つに」

A bolt of lightning split the tree in two 「落雷がその木を真二つに裂いた」  
in two twos 「すぐに」 = immediately

She will be here in two twos. 「彼女はすぐにここへ来るよ」

have two left feet 「足が器用でない」 = He is all thumbs.

two and two 「二人ずつ」

We started on foot, two and two. 「私たちは二人ずつ徒歩で出発した」

be as like as two peas 「瓜二つである」

be in two minds 「迷っている」

There won’t be no two opinions about this 「このことでは意見は分れないだろう」  
次に日本語の慣用表現を挙げて見よう。

「二枚舌」 “Use a forked tongue” ずばりいえば “tell a lie”

「お前は二枚舌を使っている」 = “You are lying to me.”

「二の腕をまくる」 “pull up one’s sleeve.”

「二の足をふむ」 “hesitate”

「彼は二の足をふんでいる」 = “He is thinking it over.” “He is getting cold feet.”

「二足のわらじをはく」 “fill two roles at the same time”

「二足のわらじをはこうとして失敗した」 = “He tried to play two roles at the same time and failed.”

「二東三文」

「そんなものを売っても、二東三文にしかならない」 = “That would bring only a small

- price.” “You can sell it only as junk” — junk くず物—  
「二進も三進もいかない」  
「借金で二進も三進もいかない」 = “I am deeply in debt.” “I am dead broke.”  
「二次会」 “post-party”  
「二次会に出席しよう」 = “Let’s attend the post-party after enjoying the big party.”  
「二言を吐く」 “break one’s word”  
「このことについては二言はない」 = “I have said my last word on the matter.”  
「武士に二言はない」 = A samurai’s word is as good as his band.”  
「二心のない」 “single-hearted” “sincere”  
「二心をいだく」 “have two faces”

次に **two** に因んだ英語の諺を挙げよう。

1. Two and two make(s) four. 「自明の理」の例として用いられる。
2. Two is company, three is none. 「二人では気が合うが、三人では仲間割れ」
3. Two apples in my hand and the third in my mouth.  
「手にはリンゴが2つ、三つ目が口の中」
4. Two blacks do not make a white.  
黒と黒とでは白にならない。 類例：Two wrongs don’t make a right
5. Two curs shall bite each other. 犬は二匹だとかみ合う
6. Two daughters and a back door are three arrant thieves.  
二人の娘と裏口は、3人の大泥棒である。  
(娘三人あると身代がつぶれる) (スコットランド人の家には裏口がない。)
7. Two dogs fight for a bone and the third runs away with it.  
二匹の犬が一本の骨を得ようと戦い、第三の犬がその骨をくわえて逃げ去る。  
(漁夫の利)
8. Two ears to one tongue, therefore hear twice as much as you speak.  
舌一枚に耳二つ、それ故に口を使う二倍だけ耳を使え。  
(二度聞いて一度ものをいえ)
9. Two of a trade seldom agree.  
二人の同業者がうまくいくことはめったにない。  
(職がたき)
10. Two suns cannot shine in one sphere.  
一つの空に二つの太陽は輝き得ない。  
(天に二日なし)
11. Two wolves may worry one sheep.  
二匹の狼は一匹の羊をいじめることができる。  
(小坊主一人に天狗八人)
12. Two words to a bargain.  
契約には言葉が二つ必要である。 (甲乙同意の言葉)  
(一文銭は鳴らぬ)

—THREE, FOUR, FIVE—

'Three' を含む慣用句は意外に少ない。

Three hot days and a thunderstorm 「晴天3日に雷雨1日」。これは英国式の夏の天候を示す語句で「三寒四温」などというのに類するものである。

English people are inclined to complain of their damp and rainy climate. Foreigners laugh at it, and say that an English summer is made up of three fine days and a thunderstorm. 後半の意味は「英国式の夏は、晴天3日雷雨1日というのだから、それをはじめはじめしているかなんとかいってこぼすのはまちがっていると嘲けり笑うのである」である。

Three R's 「読み・書き・そろばん」である。 'reading, writing, 'rithmetic' の基礎学科をいう。

Three Unities 「三一一致」 戯曲構成上の法則で、 'Unity of Action' (行為の一致) 'Unity of Time' (時の一致) および 'Unity of Place' (所の一致) の3つをいう。

three sheets in the wind 「たいへん酔っている」 (= very drunk)

日本語の表現としては、「三羽ガラス」 = trio, 「三盆白」 = refined sugar, 「三々五々」 = by twos and threes などがある。

「三拍子そろった選手」 tripple-threat (all round) player

「女は三界に家なし」 Women have no house of their own in the theefold world.

「三々九度の盃をする」 perform the ceremony of the three-times-three exchange of nuptial cups

「万才三唱する」 give three cheers

「舌先三寸でごまかす」 talk away

舌先三寸ではすまされないよ。 You can't talk your way out of it.

「三度目の正直」 The last time is proverbially decisive.

「佛の顔も三度」 Even a worm will turn.

「三度目には芽が出る」 The third time's lucky.

「三面六臂の活躍をしている」 He is active in many fields. *or* He is working energetically in many fields.

「三寒四温」 a cycle of three cold days and four warm days

「道楽三昧の日を送る」 pursue life of pleasure and gaiety

英語の諺として popular なものを挙げよう。

1. Three failures and a fire make a Scotsman's fortune  
失敗三回火事一回でスコットランド人は身代を作る。
2. Three helping one another bear the burden of six.  
三人が助け合えば六人分の荷物が運べる。  
(破るる布も二重は久し)
3. Three may keep counsel if two be away.  
三人でも二人いなくなれば意見を秘密にしておくことができる。
4. Three removes are as bad as a fire.  
引越し三回は火事一回に当たる災害

(引越し三両)

5. Three know it ; all know it.  
三人知ればみんなが知る.
6. Three things drive a man out of his house —— smoke, rain, and a scolding wife.  
三つのものが男を家から追い出す——煙と雨とガミガミいう女房.
7. Three things kill a man ; a scorching sun, supper, and cares.  
人を殺すもの三つあり. 曰く, 焼けつく太陽, 晩餐, 憂慮是なり.
8. Three women and a goose make a market.  
女三人と鶩鳥一羽とは市場の喧騒を作る.  
(女三人寄れば姦し)
9. Three things are insatiable, priests, monks, and the sea.  
飽くことなき強欲三つ: 司祭, 修道僧, 海.
10. Three things cost dear : the caresses of a dog, the love of a mistress, and the invasion of a host.  
金のかかる三つのことは, 犬を愛撫すること, 情婦を愛すること, 多勢の者に押しかけられること.

次は 'Four' に移ろう. 先ず "Four-leaf clover" を云わねばならない. 四つ葉のクローバは滅多に見つからないので, 大いに珍重されてきて, faith, hope, love, luck の四つの美德を現わすといわれる. 次の詩はアメリカの詩人 Ella Higginson の作で広く知られている.

#### THE FOUR-LEAF CLOVER

I know a place where the sun is like gold  
And the daisy blooms burst with snow ;  
And down underneath is the loveliest nook,  
Where the four-leaf clover grow.  
One leaf is for hope, and one is for faith,  
And one is for love, you know,  
But God put another in for luck,  
If you search, you will find where they grow.  
But you must love and strong, and so,  
If you work, if you wait, you will find the place.  
Where the four-leaf clovers grow.

うららかに照る日影に, 百千の花ほほえむ,  
人知らぬ里に生うる四つ葉のクローバ,  
三つの葉は希望・信仰・残る一葉は幸  
求めよ疾(と)く, その葉 希望深く,  
信仰かたく愛情厚くあれ,

やがて汝も摘みて取らん四つ葉のクローバ—— (乙骨三郎)

Four Freedoms 米国の大統領 Franklin D. Roosevelt (1882-1945) が1941年1月6日に議会の演説で, 自由世界における基本的な人間の自由 (essential human freedom) として挙げた freedom of speech and expression, freedom of worship, freedom from want 及び free-

dom from fear, をいう.

Four-o'clock 午後四時ごろ労働者の食べる間食. 細江逸記氏は「パリの Opera 付近の町を歩いていると, 自分の目に入ったのは, ある喫茶店に FOUR-O'CLOCK A CINQ HEURS (four o'clock at five o'clock) という面白い看板であった」と記している.

the four corners といえば「内容」「範囲」となり, the four corners of the world といえば「世界中津々浦々に」となる.

次に日本語でよくいわれているものに言及しよう.

「四の五のいわず」 without arguing ; with a good grace

「四分六に分ける」 divide ~ at the ratio of 6 to 4.

「四角ばらずに」 without ceremony 「四角ばって話す」 speak like a book

「四面楚歌の声をきく」 find oneself betrayed by all of one's country-men

「四六時中」 day and night ; a whole day

この店は四六時中開いている. The store is open 24hours a day.

「四捨五入する」 count as one fractions of five and over and ignore those of less.

英語の諺としては

1. Four eyes see more than two. 三人寄れば文珠の知恵
2. Four hostile newspapers are more to be feared than a thousand bayonets.  
敵意を含める四種の新聞紙は千人の兵より恐るべし.
3. Four things are not to be brought back ; a word spoken an arrow discharged, the divine decree, and past time.  
四つの物は戻し得ず, 即ち語られた言葉, 放たれた矢, 天命, 過ぎ去った時。
4. Four farthings and a thimble make a tailor's pocket jingle.  
ファースング銅貨四枚と指抜き一個とが仕立屋のポケットをチャリンといわせる (仕立屋の貧しさをいったもの)
5. Four good mothers beget four bad daughters ; great familiarity, contempt; truth, hatred ; virtue, envy ; riches, ignorance.  
四人のよい母親は四人の悪い娘を生む. 大親密は軽蔑, 真実は憎悪, 徳行はそねみ, 富は無知を.
6. A four white-foot horse is a horse for a fool, a three white-foot horse is a horse for a king, and if he has but one I'll give him to none  
足が四本とも白い馬は馬鹿が乗る馬, 三本白いのは王様が乗る馬, 一本だけ白いなら, 俺は誰にもゆずらない. (足がみな白い馬は不吉または無能と考えられた. 一本だけ白いのは最上の馬とせられた) a four-letter man といういい方があるが, 「馬鹿, 間抜け」という意味に使われる.

‘FIVE’になると成句は更に少なくなり ‘take five’ が rest’ の意味 (五分間休む) ある. five day week といえば「週五日労働」である. 日本語では「五風十雨」‘seasonable rains and winds’, 「五里夢中」‘be in a fog’ ; ‘be at a loss’ 又「五分五分となる」は ‘get even with ~’ とでもいえようか.

「形勢は五分五分である」 The chances stand even.

「うまくゆく見込は五分五分だ」 The attempt has only a 50-50 chance of success.  
諺としては

Five hours sleepeth a traveller, seven a scholar, eight a merchant, and eleven every knave. 旅人は五時間眠り, 学者は七時間, 商人は八時間, そしてならず者はみな十一時間くらしいものである.

### おわりに

取りあえず今回は five まで挙げたが, 数字にまつわる表現は何ととっても, 1 から 3 までが一番多い. 因みに「英語教育」6月号で田辺洋二氏が述べて居られるが, 「英語諺辞典」(三省堂)に出てくる諺の個数は第一位が two, 第二位が one, そして第三位が three である. 人類が数を考案した経過から見て宜なるかなである. 枕草紙の「春はあけぼの」のくだりに次の文がある——

「秋は夕暮夕日のさして山のはいとちかうなりたるに, からすのねどこへ行くとて, みつよつふたつ, みつなどとびいそぐさえあはれなり」

この「みつよつふたつ, みつなど」は実に写実を越えた世界であり, 実に興味津々である. この度, 幾多の数・数字を含む表現——慣用句・諺などを垣間見えてきて, 「数」が人間の作り出してきた, 文明・文化に大きな役割を演じていることを, 今更のように, しみじみ思うのである. 偶々本日正岡子規の句に出会った.

三千の俳句を閲し 柿二つ —— 子規

### 参 考 文 献

1. 市河三喜: Dictionary of English Quotation, 研究社 (1952)
2. 小沢愛園, 山本文之助, 増田一彦: A Dictionary of English Proverbs, 篠崎書林 (1955)
3. 下中邦彦: 日本大百科辞典, 平凡社 (1959)
4. 池田重鑑, 岸上慎二: 枕草紙, 岩波書店 (1968)
5. 井上義昌: 英米故事伝説辞典, 富山房 (1972)
6. 大塚高信, 高瀬省三: Sanseido's Dictionary of English Proverbs, 三省堂 (1980)
7. 池田弥三郎: 日本語の常識大百科, 講談社 (1982)
8. 松本亮: これを英語で何というか, 英友社 (1985)
9. 森 毅: 数の歴史, 講談社 (1988)
10. 大修館: 英語教育 (6月号), 大修館書店 (1991)